

## 北西海岸のシルクスクリーン版画

シルクスクリーン(蚊の起源)(標本番号H144824、高さ/77cm 幅/57cm)

岸上 伸啓(きしがみのぶひろ)

本館先端人類科学研究部

一九六〇年代にカナダの北西海岸先住民のあいだでは、販売用のアート作品として版画がさかんに制作されはじめた。版画自体は伝統的なものではなかったが、そのなかに表現された図像は伝統的なものであった。みんぱくにはカナダ国立博物館の協力のもとに収集されたカナダ北西海岸先住民の版画が約六七〇点、所蔵されている。

北西海岸先住民の版画は、彼らの祖先と関係の深い動物や昆虫、神話のなかの怪物、精霊、太陽や星などが、色鮮やかに、幾何学的な形式で描き出されている。意外と、人間の様子や姿を描いた図像は少ない。一方、おどろくほど多種多様な生物が版画のなかに描き出されている。たとえば、クマやクジラ、ラッコ、ビーバー、シャチ、サケ、タコ、ウナギ、ハマグリなど多種の海生動

物、ワタリガラス、ワシ、タカなど多数の鳥、蚊やチョウのような昆虫、双頭のヘビやサンダーバードなどの想像上の動物が、独特の形態に変形され表現されている。

ここで紹介したのは、夏に大量に発生する蚊の版画である。北西海岸にすむ多くの人びとにとって、蚊は彼らを刺し、血をすうので、害虫のひとつであると考えられている。しかし、クワクワカクク社会やツィムシアン社会では重要な儀礼で踊るときに蚊の仮面を着用する家族がいる。この一族の祖先と蚊とのあいだには何らかの関係があると考えられており、蚊は、代々、一族の紋章のひとつとして受け継がれている。彼らにとつて蚊は祖先と彼らをつなぐ重要な象徴的な媒介物であるとともに、共生すべき大事な自然界の一部なのである。

現代の北西海岸先住民のアーティストは、

多数の昆虫のなかから蚊を選び、注意深く観察し、独特な形態で描き出している。

